

(様式第4号)

交流・文化施設等整備検討委員会第9回委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成21年3月24日(火) 午後3時30分から5時35分まで
3	会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、土本委員、美山委員、伊藤委員、成沢委員、山浦委員、山崎委員、関口委員、石川委員、森委員、塚田委員、岡村委員、西澤委員、浦委員、竹花委員、小川委員、柄沢委員、田中委員、清住委員、桜井委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、【欠席委員】山岸委員
5	市側出席者	大澤政策企画局長、小菅教育次長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、宮川政策企画課長、中部文化振興課長、中山公園緑地課長、清水都市計画課長、若林交流・文化施設建設担当係長、室賀係長、徳田主任、
6	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
7	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
8	傍聴者0人	記者3人
9	会議概要作成年月日	平成21年3月25日

協議事項等

1 開会(大澤政策企画局長)

2. 委員長あいさつ

これまでに専門委員会も含め十分に議論してきており、中間報告をまとめられる段階となった。今日は中間報告の素案という事で、皆さんから忌憚のない意見をいただきたい。

3. 議事

(1) 中間報告書の素案について

事務局:(資料説明)

委員長:事務局から先に送付した素案(第5回専門委員会資料)から少しバージョンアップしている。ページ順でなくても良いので、ご意見など、ぜひお願いしたい。

委員:どこからでも良いとのことだが、せっかくなので...

委員長:順番にやりましょうか。

委員:順番の方が意見を出しやすく、またまとめやすい。

委員長:では今の意見により、ページ順に進めたい。まずタイトルについてはこれで良いか。

委員:(特に意見なし)

委員長:P.1の「はじめに」について、この施設は未来の子ども達のために考える、という点から始まり、また市長も話しているとおり、この事業は中心市街地の活性化が最大の課題である点を踏まえた表現となっている。何かご意見は。

委員:ところでこの中間報告書は誰に向けての報告か。

委員長:市長への報告ということ。

委員:市長ということは、行政、議会、市民、これら全てに対する報告ということか。

委員長:市長というのは機関の象徴であり即ち行政ということ。私達は行政から今回の検討を請けたわけであり、行政に対してJT開発地での交流・文化施設のありかたを報告するということ。

委員:市民公聴会などで市民の皆さんからの意見を聞くことも視野に入れているか。

委員長:当然市民の皆さんの意見を聞き、また様々な事例を研究する必要がある。非現実的な議論をしても無意味なため、これまでも専門委員会から専門的な意見を聞きながら進めてきた。

委員:それから、素案は全体的にはよくまとめられているが、具体性や説得力の面では疑問が残る。

委員長:個人的にこれは非常に具体的と感じているが、ではどのような点で具体性に欠けているのか。

委員:美術館に関心がない方が、どのような美術館なのかを具体的にイメージできることが必要。「美術館は不要」と言う方も、時間をかけて話をしていくと「ぜひ作って欲しい」と言われる。抽象的に美術館といってもあまり賛成していただけない。

委員長:P.6で美術館について触れているが、ここでの表現案など、報告書もまとめの時期に来ているため、具体的な提案をしていただきたい。

委員：以前の会議で市民アトリエが必要との意見を出し、これが素案に反映されていることは良いが、具体的な内容となると分かりにくい。上田創造館で行っている「子どもは天才講座」では、上田は幼児教育・子育て日本一の町を目指すという方針の中でこの講座を捉えると…、

委員長：ご意見はよく分かるが、それらを例えば P.6 で具体的に表現すればどうか。ただし全て記載すると膨大なページ数となる。ポイントを押さえながら、十数ページ程度とすべきではないか。

委員：では報告書はこれで良いが、ただし別冊の資料でどんなに分厚くても作る必要がある。

委員長：それは作るべきか改めて議論したい。同じ事をホールや交流施設などでも行うと終わらない。

委員：この素案はよくまとまっている。今はまだ中間報告の段階であり、報告後さらに詳細な議論を行えばよい。現時点であまり広く議論するときりが無い。

委員長：美術館に関する意見は P.6 の所で再度発言いただきたい。さて「はじめに」については良いか。

委員：タイトルでは JT 開発地～、P.12 では天神～となっており一貫性がない。

委員長：P.12 では（仮称）となっているが、タイトルと合わせ JT 開発地としても良い。

委員：JT 開発地は今年度である程度の開発工事が終わってしまうため、今のうちに統一しておくべき。地区の名称がどのようになるか、天神という名前が残るのかどうか、これは今後の課題。

委員：現段階では天神（仮称）という表現が場所を特定しやすいため良い。また（仮称）としておかなければ、検討委員会で施設の名称を決めてしまったと誤解されても困る。

委員長：今のような意見もあるため、P.12 は天神（仮称）交流・文化施設で良いのではないか。さて、P.2～4「理念と目標」について、抽象的な表現に加えて具体的な事業展開を例示している。専門的な事ばかりでなく、市民の皆さんが読むことを想定した内容と思うがどうか。

委員：「鑑賞・創作・交流・育成」の4つの視点は良いが、P.2の図1では「育成」が一番上にあるにも関わらず、P.3～4では「鑑賞・創作～」の順で記載されており整合性がない。やはり「育成」が中心にあるべき。

委員：今の意見に賛成。P.2はよくまとめているが、P.3は「育成」が一番先にあるべき。「育成」のために他の3つがあり、また逆に「育成」が他の3つをさらに深いものにしていく

委員長：専門委員会でも「育成」の重要性について議論があり、P.2の文章に表現を加え、図1も変更したが、確かにP.3～4においても「育成」を先頭に配置するという変更が必要かもしれない。

委員：P.1で人づくりや地域の育成に触れられているが、この内容と整合性を保つために、図1について、「育成」の文字から描かれている矢印の方向を逆にすべき。

委員：私も同感。

委員：「鑑賞・創作・交流」という下地から、市として「育成」を目指すという形が良い。

委員：ホールや美術館は「鑑賞」や「創作」が中心にあるため「育成」で支えるという図が良い。

委員：P.2上部の文章も「育成」を前に配置し、P.3～4も同様の順序とする。これで図1の矢印を逆にすればそれぞれの整合性が図れる。

委員長：良いと思う。図1は「育成」を下に配置し他の3つに対して矢印が上がる形でどうか。

委員：他の3つは同列に並べる方が良い。

委員長：現状でも同列的で捉えられると思うがどうか。

委員：「育成」のため「鑑賞・創作・交流」があり、その結果また「育成」に戻る。つまりスタートでありゴールでもある。理念としては先程までの意見に賛成であり、この会議の中でも共有できているのではないか。後は矢印をどうしたらいいか…。

委員長：図を修正して次回再度議論したい。P.3～4は「育成」を一番始めに配置する案でよいか。

委員：（賛成）

委員：P.4に「大学等での芸術活動～」、「小・中学生が集う～」とあるが、高校生にも配慮が必要。

委員：小・中・高生、あるいは、生徒・児童でどうか。

委員長：小・中・高生で良いでしょう。他にはよろしいか。

委員：（なし）

委員長：P.5「施設整備の方向性」についてご意見は。

委員：「トータルデザイン」や「ユニバーサルデザイン」については日本語にできないか。

委員長：注釈を付けることはできる。

委員：文章として適切なことは分かるが、一般的な分かりやすさとしては疑問。

委員長：「ユニバーサルデザイン」は「統一制度」、「すぐれたトータルデザイン」は「全体の優れたデザイン」という事かと思うが、日本語表記のあとに括弧書きでカタカナを入れる方法もある。P.6の「多目的ホール」についてのご意見は。

委員：「プロセニウム形式」の説明が分かりにくい。今の市民会館は何形式か。

委員：現上田市民会館も「プロセニウム形式」。緞帳が額縁のようにになっている形式。

委員長：一般の市民の皆さんが読んででも分かりやすい表現に改める必要がある。

事務局：現在の上田市民会館のような方式という内容の表現を付け加え、次回提案する。

委員長：「美術館」について、先程アトリエに関して意見が出されたが、具体的な文案をお願いしたい。

委員：美術館について、詳細な内容は誰が作るのか。

委員長：建物については設計者、運営についてはまた別の組織で検討されることも考えられる。

委員：ここで言う美術館とはどのようなものなのか、明確な考えを持っておく必要がある。

委員長：それを報告書にコンパクトに表現しておけば、将来詳細な内容の検討時に反映される。

副委員長：今日は中間報告書の検討であり、今後基本計画の策定や設計の段階で詳細な決定が行われることも踏まえれば、現段階ではある程度の方向性や理念を示すことが目的。

委員：市民公聴会等を想定すると、非常に詳細な内容まで決めておく必要がある。

委員：今後のスケジュールについて整理しておくべきではないか。事務局から説明されたい。

事務局：まだ内部調整が済んでいない部分もあるが、予定としては、次回3/31の第10回検討委員会にて中間報告書をまとめ、これを市長に提出されたい。あくまでも中間報告であることから、ある程度の方向性や理念を位置づけていただく。その後は市民公聴会などでの意見を踏まえ、最終報告に向けた議論をお願いし、最終報告後は市で基本計画を策定、改めて市民の皆さんにお示ししたい。これは21年度秋季を予定しており、その後設計業務へとつなげてまいりたい。

委員：内容については、今後の修正の可能性を踏まえ、この程度に止めるべき。ホールについてももっと詳細に記載すべきであるが、あくまでも中間報告であるため今回はこれで良い。

委員：市民の皆さんからは、どのような施設ができるか早く示して欲しいという要望が多い。したがって、詳細な部分は今後の議論や設計などの段階で決定することとし、現在は中間報告の段階である点を踏まえて議論を前に進めるべき。他の委員の皆さんも概ね同じ意見ではないか。

委員長：私もそういう認識でいる。次にP.7の「交流施設」と「市民緑地・広場」についてはどうか。

委員：アート作品を屋外に展示すること、親水空間をどのような形とするか課題として盛り込むべき。

委員長：屋外展示については専門委員会でも意見が出され、また反対の意見もあった。ただし中間報告書に盛り込むことは可能。P.8「施設全体のイメージ」、P.9「施設配置イメージ」はどうか。

委員：「施設配置イメージ」について、隣接の商業施設や広場の位置を示した方が全体を捉えやすい。

委員長：中心市街地の活性化という観点からも地区全体での計画が重要。ただし、まだ商業施設側の全体像が公表されていないため、最終報告書には全体を捉えた図を掲載したい。

委員：この図では玄関が北向きと考えられるが、私が尋ねた方々のうち、9割が北向きに反対している。また商業施設の図面を見ると味気ない建物と駐車場だけであり、ぜひ北向きは避けるべき。

委員長：商業施設の図面とは何を見られたのか。

委員：アリオの説明会に出席し図面を見た。またその中で緑地の設置について意見を述べた。

事務局：(仮称)アリオ上田について、昨年5月に大店立地法に基づく住民説明会が開催されたが、この計画は8月に凍結されており、新しい計画については来月に改めて説明会が開催される予定。その中では緑地についても配慮されるものと思われるが、その点をご理解いただきたい。

委員：わかりました。

事務局：「施設配置イメージ」では北向きの建物がイメージされるが、この図の意図としては、ホール、美術館、交流施設がエントランスを共用するという点にあるため、「上田城の眺望」や「千曲川の眺望」の文字やそれを示す矢印は削除したい。また、市民の皆さんにも分かりやすいように、地区全体の配置図も加えたい。

委員：施設配置はあくまでもイメージ図のため、これが決定案ではない旨の注釈が必要。

委員長：そのとおりだと思う。また、ホールと美術館がそれぞれ単独ではなく、交流施設などでつながっているという趣旨も分かるようにすべき。次の「運営・管理の方向性」についてはどうか。

委員：P.11の表2について、事例毎に大きな数字の差があるがこれについてはどうか。

委員：この表は不要ではないか。

委員長：文章内で「平均で年間 円/㎡」という表現が出ているため、根拠を掲載する必要がある。

委員：「他の施設の例を参考に」という表現があれば文章だけで良い。事例DとHは比較に不適当。

委員長：経費は重要な問題であり、これによっては規模の再考もあり得る。今後の詳細な議論を踏まえても、中間報告で全く触れないわけにはいかないため、他施設の平均値を示す必要がある。

事務局：施設毎に数値の差があるが、これは施設の構造や設備、また事業の方針やスタッフの配置の差

によるもの。今回はあくまでも平均値という事で表現しているが、この表の取り扱いには重要な課題でもあるため、引き続き意見をいただきたい。

委員：私は必要ないと思うが、どうしても必要という事であれば事例 D と H は除くべき。

委員：中間報告で全く触れないわけにはいかないが、あくまでも平均・予想値との表現に止めるべき。

委員長：表 2 は不要という事か。

委員：そうです。

委員：ここは中間報告で最も重要な部分であり、少しでも実例を紹介しながら経費の部分を具体的に説明すべき。そうでなければ、文化施設を訪れない人々も等しく税を負担していることを考えると、そのような人々に対する説得力に欠けてしまう。中には医療を優先すべきという人もいるが、文化は医療と同じ水準にあることからこの施設は必要であり、市民が施設を育てていくことが重要。「経済状況に配慮し建設は行わない」ではなく、様々な困難を乗り越え、市民の皆さんの理解を得ながら進めることが必要。過日松本市長も、文化芸術に関しては芝の青い部分だけでなく、その裏の部分も見ることが必要と話されていたが、管理運営費に関しては隠さず詳細に記載し、早い段階で市民の皆さんの意見を取り入れる事が必要。

委員：数字を削除するとか隠すという事ではなく、あくまでも平均値からこの程度の経費が予想されるという表現に止めるということ。事業費の 150 億円にしても、財政状況に配慮し、出来る限り軽減するという事は委員全員の共通認識ではないか。

委員：施設の規模や運営によって運営管理費は様々だという表現を加えればよい。その中で、平均すれば 円ということ併せて説明すれば、この表も生きてくる。

委員：隠すつもりはなく、その必要もない。事業費や運営費を節減するのは当然であり、平均値という表現がなぜ「隠す」ことにつながるのか分からない。そもそも私は建設反対の立場で検討委員になったが、この中間報告の段階になり「育成」などの理念に触れ、やはり施設は必要だと感じている。ただし、委員として説明する立場にあるため、もう少し分かりやすくすべき。

委員：この表は数字の根拠として載せるべき。できれば施設の名称も明らかにし、「この施設は、こういう特徴のために、この程度の経費が必要」と説明しながら、またその中で上田市が参考にすべき施設は だという論法にすれば説得力がある。

委員：説得力という点が非常に重要であり、なぜ美術館が必要なのか、どのような美術館を作るのか、私はそういう夢を語りたい。市も夢を持って語ることで市民の皆さんの理解が得られる。

委員長：色々意見が出たが、この表については、確かに費用はかかるが現実的な計画であり、かつこの施設は必要だという説明の中で、やはり根拠として載せるべきではないか。中間報告後にはさらに詳細な議論をする中で数字の精度を高めていけばよいと思うがどうか。

委員：(賛成)

委員長：さて、予定の終了時間が過ぎようとしているが、最後の P.12 についてはどうか。

委員：太陽光発電などを活用し、経費を節減するような提案を盛り込むべき。まちづくり交付金や合併特例債については、活用の「要望」ではなく、「最大限活用した計画を立てられたい」とする。

委員長：よいと思う。太陽光発電に関しては P.5 の にも一応表現されているが、特に公共建造物においてこれらの配慮は当然の流れとなっており、本施設にも必要なことと考える。次回 3/31 の委員会で修正後の中間報告書案を確認し市長に提出したい。なお、今回はあくまでも中間報告であり、今後修正の可能性があるのでご理解いただきたい。

委員：市民アンケートの結果に緊急避難場所という要望があるが、この点に配慮した表現も必要。

委員長：これも P.5 の で少し触れているため、ここに表現を追加すればどうか。他にはよろしいか。

委員：(なし)

(2) 第 10 回検討委員会の開催について

(なし 議題(1)の中で事務局より説明済のため)

4. 閉会(日端委員長)

これで今日の会議は終わりにしたい。それではまた来週ですがよろしくお願ひします。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。